令和4年度

穴吹小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇学習規律の確立を図り，丁寧な学習習慣を身に付けさせる指導の工夫。
〇基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるための授業実践。
〇主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践
（思考力，判断力，表現力などを育むための授業実践）

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
田上　史枝

委員
校長：大内 史郎　教頭：村上 功洋　研修主任：田上 史枝
杉浦　舞　　村岡 陽平　　大塚　優　　岩田　麻希
松田　徳子　　出原　道代　　平谷　茉美　北村　恵子
原　友里江　　西岡田　さつき

校長
大内　史郎

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業，教員からの報告や調査など様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

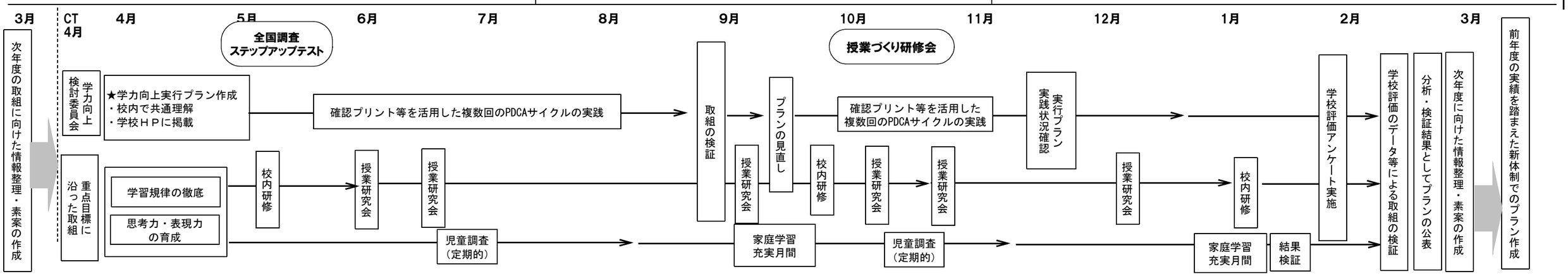
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇授業には真面目に取り組み，指示されたことは，勤勉に取り組もうとする。 〇互いに協力して学習を進めていこうとする態度が育っている。 ●語彙の知識や自分の考えを伝える手法が十分に身についていない。 ●算数科では特に定着具合の個人差が大きい。	・繰り返し学習を積み重ね，基礎的・基本的な知識技能を確実に習得し，他の場面で活用できる。 ・学年に応じた話す・聞く力を身に付け，語彙を増やし，自分の考えや意見を伝えることができる。	・穴小5つの聞く力・話す力（あいうえお）や発表の仕方を毎時間意識させ定着を図る。 ・めあてに沿ったふり返りを書かせるとともに，定期的にミニテストで定着度を図る。 ・自分の考えを伝える手法（図，式，言葉など）を身に付けさせ，対話的な活動を感染対策に留意しながら授業に取り入れる。 ・ドリル時間の充実を一層図り，一人一台のタブレットも活用しながら漢字・計算・読解問題を計画的・継続的に実施していく。 ・音読の仕方を指導し，音読発表会などの機会を設ける。	・聞く力・話す力について一定の成果があるため，継続する。 ・読解のプリントを宿題にしたり活用力を高めるために県版のプリントを計画的に扱ったりしていく。 ・ワークシートやノートに思考ツール，イメージ図等を入れさせるなど工夫したものにさせる。 ・国語辞典を積極的に使わせる。	〇個人差が大きいが，基礎的なことは8割くらい定着した。 〇板書やノートを書くスピードが上がり，丁寧にまとめることができるようになった。 〇マイ辞書を持ち，語彙が少し上がった。 ●ドリルの時間の充実やミニテストの実施は，学年が上がるにつれ実施が難しくなってきている。 ●自分で思考ツールや図を工夫して活用はできていない。考え方などを自分で書くのは苦手である。	・繰り返しの学習等にタブレットを有効に活用する。 ・日常生活での漢字の活用。（日記に習った漢字を何個使ったか等） ・思考ツールなどを選択できるような指導の工夫。（選択肢を増やす指導など） ・ミニテストを継続して行う。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇自分がテーマを決めて書く自由作文などは，自分の思いや考えが明確に表れるようになった。 ●既習事項を活用して課題を解決していこうとする意欲に欠ける児童がいる。 ●子どもたちが学び合う場で，他者の意見と自分の意見を比べながら考えることが十分でない。	・友達の考えと自分の考えを比べながら聞き，よりよい考えを見出し学習を深めることができる。 ・目的に応じて読んだり，根拠や理由を明らかにしながら，自分の考えを書いたり伝えたりできる。	・新聞等も活用しながら自分の考えを根拠を明確にしながら書いて説明したり，友達の考えと比べながら聞いたりする活動を効果的に取り入れ，学び合う場をつくる。（ファシリテーターの導入，タブレットの活用） ・めあてに沿った文章を書くことや自分の思いや考えを明確に書くことを指導し，表現力を高める。 ・算数科では数学的活動を充実させた学習展開の工夫を行う。	・タブッレットを用いた対話やグループ活動に取り組んでいく。 ・理科・算数を中心に学習課題とまとめを結びつける授業展開を引き続き継続する。 ・叙述に基づき，自分の言葉で説明できる場を意図的に設ける。 ・グループでの話し合いを通して，意見のつなぎ方を指導する。 ・全教科，基礎基本のさらなる徹底をし，積み残しのないようにする。	〇学年が上がるにつれ，めあてに沿った振り返りが書けるようになってきた。下学年はめあてをしっかり意識させることができた。 〇係活動の工夫などにより，レポートを作成するなどタブレットを有効に使えるようになった。 〇話し合いで一言で終わらず，自分の意見を相手に伝えられることができるようになってきた。 ●まとめを教師が言うのではなく，練り上げたい。 ●具体物で示すとできるが，具体物から離れられなくなることがある。	・発達段階に応じた話し合い活動の充実。 ・個人差への対応。 ・タブレットの活用機会を増やす。 ・抽象的でなく，具体物を可能な限り使って実際に見せ，理解を図る。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇自分で課題を決め，自主学習に取り組める児童が増えている。 〇週末の読書の習慣はできつつある。 ●家庭での学習習慣が身に付いている児童が多いが，身に付いていない児童もいる。	・自分の夢や目標に向かって粘り強く取り組むことができる。 ・めあてをもって学習に取り組み，わかる喜びを味わいながら進んで学習できる。 ・幅広い分野の本に親しみ，進んで読書に親しむことができる。	・「家庭学習の友」を使って家庭学習の仕方を繰り返し指導し，手本となる自主学習ノートを紹介する。 ・基本的な生活習慣や学習習慣を意識づけるため，定期的に生活調査を行う。 ・お薦めの本を紹介したり，週末本を借りる活動を通して読書を家庭学習に位置づける。 ・タブレットの有効的な活用について共通理解を図り，単元を厳選して家庭学習でも活用する。	・自主ノートの掲示を行い，児童の自主学習の質とモチベーションを高めることを継続する。 ・文の量に慣れるため，教科書以外の本や資料が興味を持って読めるような環境作りをする。 ・家庭でのタブッレトの効果的な使い方を研究し，宿題の出し方を工夫する。 ・まとまった読書時間をとる。 ・教え合う活動などで，高め合いを図る。 ・ゲーム，ユーチューブの時間の制限を家庭と連携しながら行う。	〇自主勉強は子どもたちが工夫している。お手本となる子のノートを掲示するなど共有できた。 〇タブレットを主体的に利用できている。 〇どの学年でも教え合う活動はできていた。 ●週末の読書週間はついてきたが，学年が上がるにつれて読書にかける時間が少なくなった。 ●タブレットの宿題については，家庭環境もあり学年により差がある。出し方等についての共通理解が必要。 ●ネットリテラシーの基準を設ける。	・タブレットのさらなる活用。タブレットでの宿題を徹底。（自主勉強で活用するなども含め） ・ICTの活用とともに低学年から各学年に応じた情報リテラシー教育。時間を確実に設定し実施する。 ・「読みたい」と思う本を増やす。 ・家庭とのさらなる連携。

令和4年度　学力向上ロードマップ